

令和7（2025）年度 みのり保育園の自己評価について

社会福祉法人みのり福祉会
みのり保育園

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。このことに基づき、社会福祉法人みのり福祉会では次のように自己評価を実施しております。この評価を通して今後もより良い保育を実施できるよう努力していきます。

＜評価について＞ 評価を
するにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。
A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

【第1章】総則

①保育所保育に関する基本事項

	評価項目	評価
保育所の役割	①子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場になることを理解している。	A
	②子どもの人格尊重を意識して保育を行っている。	B
目標	①社会福祉法人みのり福祉会の法人理念や保育目標を年度初めに職員で確認している。	B
	①社会福祉法人みのり福祉会の法人理念や保育目標を、職員や保護者などに見やすい場所に掲示するとともに、配布物等を通し周知している。	B
保育の方法	①子ども一人一人の特性や発達に家庭に応じ、発達の家庭に即した援助を行うように心がけている。	A
	②子どもの主体的な活動を促し、意欲をもって遊べるような援助を心掛けている。	A
環境	①健康的に過ごせるよう、保育活動の配分に気をつけている。	A
社会的責任	①地域へのお便り等を発行し、保育園を理解してもらうよう努めている。	D
	②個人情報適切に扱い、保護者の苦情に対し解決を図るよう努めている。	B

②養護に関する基本事項

養護の理念

養護の理念	①養護と教育を一体的に行うことを意識して保育にあたっている。	A
	②「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現、の5領域からされていることを理解している。	A
生命の保持	①一人一人の健康状態や発達について理解し、異常に気付くことができる。	A
	②生理的欲求が十分に満たされるようにしている。	
情緒の安定	①子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築くよう心がけている。	A
	②自分の思いや意見を伝えることができるよう配慮し、尊重している。	

③保育評価の反省

	評価項目	評価
全体的な計画の作成	①全体的な計画の作成には、職員が参加している。	A
	②長期的な見通しをもった計画をたて、職員で共有している。	A
指導計画の作成	①日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取りながら指導計画に反映させている。	B
	②各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	B
	③日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成している。	A
	④日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成している。	A
	⑤子どもが主体的に活動できるように環境設定している。	B
	⑥長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	A
指導計画の展開	①子どもの実態や状況の変化に応じて、見直しや改善を行っている。	B
評価改善	①園全体としての評価を行い、全職員の共通理解のもと改善に努めている。	B

④幼児教育を行う施設として共有すべき事項

	評価項目	
資質能力	①育みたい資質、能力を理解している。	A
	②長期的な見通しをもった計画をたて、年齢ごとに必要な経験の機会を与えている。	A

【第2章】保育の内容

①乳児保育に関するねらい及び内容

基本的事項・ねらい及び内容 保育の実践に関わる配慮事項	①離乳食については、家庭や調理員、栄養士と連携を取りながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っている。	A
	②一人一人の生活リズムに合わせて、睡眠を取ることができるよう静かな空間が確保されている。	A
	③特定の保育士との継続的な関わりが保てるよう配慮している。	A
	④午睡中は体を仰向けにすることを意識して、体温、顔色、呼吸の安全チェックをしている。	A
	⑤遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気付かせてさまざまなものに触れさせている。	A
	⑥上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている。	A
	⑦オムツの交換、授乳などのサインを逃さず対応している。	A
	⑧発語や喃語をやさしく受け止めて応えることで、言語理解や発語の意欲を育てている。	A
	⑨誤飲や転倒など重大事故につながらないように安全に注意をしている。	A

② 1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容

	評価項目	評価
健康	①生活リズムについては、一人一人の子どもの状態に合わせて対応している。	A
	②走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを取り入れている。	A
	③楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にする。	B
	④身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身につくように援助している。	B
	⑤子どもが衣服を自分で着脱しようとする気持ちを尊重している。	A
	⑥一人一人の排泄状況に応じた配慮をしている。	A
人間関係	①保育士等との安心した関わりの中で、園生活を送れるようにする。	B
	②他の子どもとの関りを少しずつ身につけられるよう仲立ちをしている。	B
	③自分の思いを伝えたり、相手の思いに気付いたりすることができるよう援助している。	A
環境	①玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合ったものを選び使用している。	A
	②積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している。	A
	③見る、聞く、触れるなど感覚の働きを豊かにしている。	B
言葉	①楽しい雰囲気の中で保育士との楽しい言葉のやりとりができるようにしている。	A
	②絵本の読み聞かせや紙芝居など積極的に取り入れている。	A
表現	①水、砂、土、紙、粘土などさまざまな素材に触れて楽しませている。	A
	②音楽、リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている。	A
	③子どもの表現をしっかり受け止め、共感している。	B
保育の実施に関わる配慮事項	①体の状態、機嫌、食欲など日常の状態の観察を十分に行うことで感染症を予防している。	B
	②事故防止に努めながら様々な遊びを取り入れている。	A
	③進級などで保育士が変わる場合、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している。	A

③3歳以上児の保育に関するねらい及び内容

	評価項目	評価
健康	①生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう保育している。	A
	②食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心を持てるようにしている。	A
	③十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう援助している。	A
	④園内外の危険な場所を知り、安全に気をつけて遊ぶよう働きかけている。	B

③3歳以上児の保育に関するねらい及び内容

	評価項目	評価
人間関係	①友達と共通の目的を見つけたり、遊びを一緒に工夫、協力して共に達成感が味わえるよう働きかけている。	B
	②物事の良し悪しの分別に気付き、考えながら行動できるように援助している。	B
	③友だちと生活する中で決まりの大切さに気付き守れるように配慮している。	A
	④生活や遊びの中で、意欲を大事にしてやってみようとする力、自信、自己肯定感を持てるような言葉がけや援助をしている。	A
	⑤友だちとの関りを通して、相手を思いやり譲り合う気持ちを持てるように援助している。	B
環境	①園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を取り入れている。	B
	②伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている。	A
	③自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。	A
言葉	①人の話を聞くことができ、日常生活に必要な挨拶や会話を身につけさせている。	A
	②絵本や紙芝居などを通して、物語の楽しさや言葉のおもしろさに気づくよう心がけている。	A
	③子どもが自分の体験や要求を自分なりに表現できるよう配慮している。	B
表現	①音楽に親しみ、歌を歌ったり、踊ったり、楽器を演奏したりする楽しさを味わう機会を作っている。	A
	②一人一人の子どもの表現の過程を大切にし、自己表現を楽しめるように心がけている。	B

④保育の実施に関して留意すべき事項

保育全般にかかわる配慮事項	①一人一人の子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえ、気持ちを受け止めて援助している。	B
	②子どもが安心感を持ち、生活できるよう配慮している。	A
小学校との連携	①小学校との意見交換や合同の研究の機会など設けて情報の共有や連携を図っている。	A
	②子どもにおける情報の共有に関して保育所児童保育要録を作成している。	A
地域社会との連携	①地域向けの園だよりで、園の様子や行事などについて地域の方々に見てもらえるようにしている。	B
	②ボランティア、職場体験の人々を受け入れている。	B

【第3章】健康及び安全

①子どもの健康支援

	評価項目	評価
健康発達	①感染症発症時に、発生状況や感染症予防について保護者に通知して入れる。	B
	②不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携対応している。	B
健康増進	①健康診断と歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達している。	A
	②子どもの健康情報を共有し、子どもの既往歴（アレルギー・熱性けいれん・脱臼癖・喘息など）について、職員間で共有し、その発生時の対応を行っている。	A
疾病等への対応	①アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し、主治医からの支持を得て、適切な対応を行っている。	B
	②アレルギー疾患を持つ子供に対し、栄養士、調理員と連携を持ち、個々に合わせた対応を行っている。	B
		A

②食育の推進

園の特性を生かした食育	①乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている。	B
	②乳幼児に期に身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている。	B
環境整備	①調理員、栄養士、保護者と連携をもち、個々に合わせた対応を行っている。	B
	②子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるよう心がけている。	A

③環境及び衛生管理並びに安全管理

環境及び衛生管理	①園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるよう配慮している。	B
	②生活の場面にあった保育士の声、音楽の音に配慮している。	B
	③園内に子どもたちが季節感を味わえるような工夫をしている。	A
	④子どもが活動しやすいように保育室の温度、湿度、換気、採光などに配慮している。	B
事故防止及び安全対策	①ヒヤリハットを共有し事故防止に努めている。	B
	②睡眠中、食事中、水遊び中の場面で重大事故が発生しやすいことを認識し、事故防止に努めている。	B
	③外部からの侵入に対し、マニュアルに沿った動きがとれる。	B

④災害への備え

安全確認	①消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている。	A
	②施設設備の安全点検を計画的に行っている。	B
避難への備え	①様々な災害を想定した避難訓練を行っている。	B
	②保護者との連携体制や引き渡し方法が確保されている。	B
連携	①地域や市域の関係機関と連携を図り、協力が得られるよう努めている。	B

【第4章】子育て支援

①保育所における子育て支援に関する基本事項

	評価項目	評価
支援と留意事項	①保育士は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている。	B
	②保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心がけている。	C

②保育所を利用している保護者に対する子育て支援

保護者との相互理解	①送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換に加え、別に機会を設けて相談に応じたり個別面談を行っている。	C
	②家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている。	B
	③『園だより』や『クラスだより』などを、定期的に発行している。	A
	④あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加を立てやすくしている。	A

③地域の保護者等に対する子育て支援

地域の子育て支援	①地域における子育て支援を実施し、地域の子育てニーズを把握するよう努めている。	B
	②子育て支援の情報を提供している。	C
連携	①子どもの医療や保健に関する問題について、連絡、相談する外部の関係機関を把握している。	B

【第5章職員の資質向上】

①職員の資質向上に関する基本的事項

保育所職員に求められる専門性	①挨拶、相手の立場に立った対応(保護者・来客・電話)ができています。	B
	②自己の健康管理ができています。	B
	③保育業務の中で知り得た子どものや家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている。	A
	④保護者や地域の人からの相談事項について、プライバシーの保護、話された内容の秘密保持を徹底し、守られている。	A
質の向上に向けた組織的な取り組み	①業務遂行にあたって、正確、迅速かつ、報告・連絡・相談を実践している。	B
	②公平に人の話を聞き、話ができ正確に伝達できている。	B
	③問題意識を共有しながら職員間で共通理解し、協力している。	A

②職員の研修等

研修の活用	①園内研修を行っている。	B
	②各職員について、適切な研修機会の確保を行っている。	B

【園全体の評価】

- ・ こども主体の保育を心がけているが、もっと子どもの視点に立って関わりを深めていきたい。
- ・ 今年度は予定通り行事を行うことができおり、本当に毎日が有難い事である。
- ・ うんどう会は参加保護者の制限なしで、午前中開催で家庭の方に子どもたちの成長をご覧いただくことができた。
- ・ 保護者地区役員会を定期的を開催することができており、園での様子を伝えたり保護者の思いを聞く機会ができています。
- ・ 親子ふれあい会を今年も開催できた。親子ふれあい会は保護者会役員の意見を踏まえ始まっており、今年度も3歳以上児クラスでみゆき公園まで行き親子で交流を深めることができた。
- ・ 近隣中学校の2年生を職場体験学習で受け入れることができ、乳幼児と触れ合うことができた。将来への志望の一端になればと願っている。
- ・ おゆうぎ会の発表は家庭の祖父母の方にも来園していただき交流ができた。和やかな雰囲気を感じることができ大変良かった。
- ・ 年度当初より園児が少ない状況が続いており経営面で厳しい状況である。
- ・ 不適切な保育についての学びと認識をもって保育にあたる。

【これからの課題】

- ・ 法人の理念、保育の目標を年度初めに職員で確認しておく。
- ・ 法人の理念や保育目標を保護者に確実に周知しておく。
- ・ 「子どもを尊重する保育」、子どもの人権擁護について職員間で考え、子ども主体の保育として意識し注意をはらいながら保育を実践していくこと。
- ・ 安全計画等を基にして職員や保護者にむけての安全対策を周知していく。
- ・ こども主体の保育を心がけていきたい。